

1 製品及び会社情報

製品名	; くみあい42被覆ジシアン尿素LPコート** (**は溶出タイプ)
別名	; DdLPコート
会社名	; 全国農業協同組合連合会
担当部署	; 耕種資材部
住所	; 〒100-6832 東京都千代田区大手町1-3-1 JAビル33F
電話番号	; 03-6271-8285
FAX番号	; 03-5218-2536
e-mail	; zz_hiyaku-gizyutsu@zennoh.or.jp
緊急連絡先	; 03-6271-8285

推奨用途及び使用上の制限; 肥料用及び肥料原料用。肥料用途以外には使用しないでください。

2 危険有害性の要約

製品のGHS分類

物理化学的危険性	可燃性固体	: 区分に該当しない
	自然発火性固体	: 区分に該当しない
健康に対する有害性	酸化性固体	: 区分に該当しない
	金属腐食性物質	: 区分に該当しない
	急性毒性 (経口)	: 区分に該当しない
	急性毒性 (経皮)	: 区分に該当しない
	急性毒性 (吸入)	: 分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	: 分類できない
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 分類できない
	呼吸器感作性	: 分類できない
	皮膚感作性	: 区分に該当しない
	生殖細胞変異原性	: 区分に該当しない
	発がん性	: 区分に該当しない
生殖毒性	: 分類できない	
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 分類できない	
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: 分類できない	

製品安全データシート

	誤えん有害性		: 分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性	短期 (急性)	: 分類できない
	水生環境有害性	長期 (慢性)	: 分類できない

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル	なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	なし

注意書き

- 【安全対策】 熱から遠ざけること。
保護眼鏡、保護手袋を着用すること。
取り扱い後は手をよく洗うこと。
粉じんを吸入しないこと。
換気の良い場所で使用すること。
- 【救急処置】 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断を受けること。
眼に入った場合には、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外して洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合は、医師の診断を受けること。
- 【保管】 容器を密閉して保管すること。
可燃物から離して保管すること。
- 【廃棄】 製品又は容器を廃棄する場合は、国及び地方自治体の規則に従うこと。

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

化学名又は一般名 : 被覆窒素肥料

主成分	含有量 ^{※1)} (%)	化学式	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	CAS No.
尿素	90～95	CO(NH ₂) ₂	2-1732	57-13-6
樹脂組成物 ^{※2)}	5～10	—	—	—
ジシアンジアミド	10以下	H ₂ N·C(NH)·NH·CN	2-1694 2-11-16, 2-11-23	461-58-1
ホワイトカーボン	10以下	SiO ₂	—	112926-00-8

※1) 含有量は代表的な分析値であり、若干の幅で変動する。

※2) ポリエチレン、ポリエチレン系樹脂、その他

労働安全衛生法に基づく、名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物
該当なし

化学物質排出把握管理促進法に基づく対象物質

該当なし

4 応急措置

- 吸入した場合 : 分解ガスや粉塵の場合は、新鮮な空気のある場所に移し安静にさせ、必要に応じて医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 水で洗い流す。
- 眼に入った場合 : 1. 直ちに多量の清水で洗眼する。
2. 必要に応じて医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 意識があるときには、飲んだものを吐き出させ、必要に応じて医師の診断を受ける。

5 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 多量の水
- 使ってはならない消火剤 : 情報なし
- 火災時の危険有害性 : 加熱されると有害ガス（窒素酸化物、アンモニアガス等）を発生する。
- 特定の消火方法 : 本製品は不燃性であるが、可燃性物質の燃焼を助勢することがあるので、保管場所を移動する。
移動が困難な時は、多量の水を注水する。
- 消火を行う者の保護 : 消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。
状況に応じて呼吸保護具を着用する。

6 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。作業の際には適切な保護マスク等を着用し、粉塵を吸入しないようにする。
風上から作業し、風下の人を退避させる。可燃性物質に着火した場合に備えて、消火機材を準備する。
- 環境に対する注意事項 : 河川等に排出され、環境へ影響を及ぼさないように注意する。
排水溝へ流さない。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 掃き集めて回収する。

7 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 発散した粉じんを吸いこまないように、必要に応じて適切な保護具を着用し、取扱い後は顔、手、口等を水洗いする。
- 接触回避 : 強アルカリ性資材、燃料その他の可燃性物質との直接混合は避ける。
- 安全取扱注意事項 : 1. 床にこぼれた粒で足元が滑り、転倒する事があるので、掃除する。
2. 容器は破損につながらないよう丁寧に扱う。
- 保管
- 安全な保管条件 : 1. 開封のまま長期間放置すると、吸湿して固結の原因となるので、開封後は密封して保管する。
2. 直射日光を避け、高温・多湿下での保管は避ける。
3. 可燃性物質との近接は避ける。

安全な容器包装材料 : ポリエチレン、ポリプロピレン

8 暴露防止及び保護措置

設備対策 : 発塵を起こさぬ装置機械を使うか、局所排気装置を使用する。
管理濃度 : 設定なし。
許容濃度 : 日本産業衛生学会、ACGIH 共に、本品の設定はないが、粉塵対応として、下記の値を推奨する。

日本産業衛生学会勧告値 (2020 年) 第 3 種粉塵

吸入性粉塵 2 mg/m³
総粉塵 8 mg/m³

保護具

呼吸器の保護具 : 防塵マスク
手の保護具 : ゴム手袋
目の保護具 : ゴーグル型眼鏡
皮膚・身体の保護具 : 長袖作業衣

9 物理的及び化学的性質

物理的状态 : 固体
色 : 白色
臭い : データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲 : データなし
可燃性 : データなし
pH : データなし
溶解度
溶解性 (水) : 可溶
(その他の溶媒) : エタノールに可溶
蒸気圧 : データなし
密度 : データなし
粒子特性 : 粒径範囲 1~4mm
その他のデータ
かさ比重 : 約 1.0

10 安定性及び反応性

反応性 : 可燃性物質の燃焼を助勢する。
化学的安定性 : 加熱すると有害ガスを発生する。
危険有害反応可能性 : データなし
避けるべき条件 : 高温、多湿
混触危険物質 : 可燃性物質、アルカリ性物質
危険有害な分解生成物 : 窒素酸化物、アンモニアガス等

11 有害性情報

急性毒性 (経口) : 区分に該当しない
ただし、構成成分である下記物質については、次のよう

製品安全データシート

整理番号：jcam-6002

改定日：2021年3月30日

	<p>な有害性情報がある。</p> <p><尿素></p> <p>ラット LD₅₀ ♂14,300mg/kg ♀15,000mg/kg</p> <p>マウス LD₅₀ ♂11,500mg/kg ♀13,000mg/kg</p> <p><ジシアンジアミド></p> <p>マウス LD₅₀ >10,000mg/kg</p> <p>以上のデータに基づき、区分に該当しないとした。</p>
急性毒性（経皮）	<p>:区分に該当しない</p> <p>ただし、構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。</p> <p><尿素></p> <p>ラット LD₅₀ 8,200mg/kg</p> <p>以上のデータに基づき、区分に該当しないとした。</p>
急性毒性（吸入）	<p>:分類できない データなし</p>
皮膚腐食性/刺激性	<p>:分類できない</p> <p>構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。</p> <p><尿素></p> <p>ヒトの試験では7.5%でSlight irritation、30%でmoderate との報告がある(48時間)。</p> <p>ICSCでは皮膚に対し発赤と記載されている。</p> <p>ウサギの試験では刺激性は認められていない。</p> <p>上記の有害性情報があるが、JISZ7252:2019の表B.4の判定基準（皮膚刺激性の区分）を満たす証拠がなかったため、分類できないとした。</p>
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	<p>:分類できない</p> <p>構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。</p> <p><尿素></p> <p>ICSCでは眼に対し発赤と記載されている。</p> <p>ウサギの試験では刺激性は認められていない。</p> <p>上記の有害性情報があるが、JISZ7252:2019の表B.8の判定基準（可逆的な眼への影響に関する区分）を満たす証拠がなかったため、分類できないとした。</p>
呼吸器感作性	<p>:分類できない データなし</p>
皮膚感作性	<p>:区分に該当しない</p> <p>ただし、構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。</p> <p><尿素> 感作性なし</p> <p>以上のデータに基づき、区分に該当しないとした。</p>
生殖細胞変異原性	<p>:区分に該当しない</p> <p>ただし、構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。</p> <p><尿素></p> <p>エームス試験 陰性</p> <p>染色体異常試験 代謝活性化なしの場合に陰性と</p> <p>の報告がある。</p> <p>以上のデータに基づき、区分に該当しないとした。</p>

発がん性	: 区分に該当しない ただし、構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。 <尿素> マウス(0.45-4.5g/kg, 12ヶ月)およびラット(4.5-45g/kg, 12ヶ月)の試験では発がん性は認められていない。 以上のデータに基づき、区分に該当しないとした。
生殖毒性	: 分類できない データなし
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 分類できない データなし
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: 分類できない データなし
誤えん有害性	: 分類できない データなし

1.2 環境影響情報

生態毒性：

水生環境有害性 短期（急性）	: 区分に該当しない 構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。 <尿素> 魚毒性 : 96時間 LC ₅₀ >9,100mg/L (<i>Barilius barna</i>) 藻類毒性 : 192時間許容限界 >10,000mg/L (緑藻, <i>Scenedesmus quadricauda</i>) 甲殻類 : 24時間 EC ₅₀ >10,000mg/L (<i>Daphnia magna</i>) <ジシアンジアミド> 魚毒性 : 48時間 LC ₅₀ >1,000ppm (<i>Oryzias latipes</i>) 96時間 LC ₅₀ >100mg/L (<i>Oryzias latipes</i>) 藻類毒性 : 72時間 EC ₅₀ 940mg/L (<i>Selenastrum capricornutum</i>) 甲殻類 : 48時間 EC ₅₀ >1,000mg/L (<i>Daphnia magna</i>)
水生環境有害性 長期（慢性）	: 分類できない
残留性・分解性	: 分類できない 構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。 <尿素> 易分解性 <ジシアンジアミド>

生体蓄積性	0%(by BOD), 0.6%(by TOC), 0.7%(by UV-VIS) : 分類できない 構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。 <ジシアンジアミド> <0.3 (conc. 2.0ppm), <3.1 (conc. 0.2ppm) ※既存化学物質安全性点検による判断結果：低濃縮性
土壌中の移動性	: 施肥にあたっては、包材裏面の「施肥量」を参照し、詳しくは最寄りのJAにお問い合わせ下さい。
オゾン層への有害性	: データなし

1 3 廃棄上の注意

1. 下水、河川等に直接流さない。
2. 「廃掃法」にしたがって処理する。
3. 燃やさない（不燃物であるが加熱すると有害ガスを発生する）。

1 4 輸送上の注意

国際規制	
国連番号	: 該当なし
品名	: 該当なし
国連分類	: 該当なし
容器等級	: 該当なし
IMDG (国際海上危険物規則)	: 該当なし
ICAO-TI (国際民間航空機関技術指針)	
IATA-DGR (国際航空運送協会危険物規則)	: 該当なし
国内規制	: 下記の法令に従い、規定の積載方法、容器等によって輸送する。 船舶安全法、航空法、湾則法
輸送の特定の安全対策及び条件	: 1. 雨水等による水濡れ防止を行う。 2. 破袋、荷崩れ等を起こさぬよう適切な対策をとる。

1 5 適用法令

肥料の品質の確保等に関する法律	: 登録肥料
消防法	: 該当しない (法第2条別表/危政令第1条の試験結果より非危険物に該当)
労働安全衛生法 粉じん則	: 粉じんが発生する屋内作業場は粉じん則が適用される。 (ホワイトカーボン粉じん) 粉じんを多量に吸入した場合、肺障害等の健康障害のおそれがあるため、作業環境測定を行うとともに、その結果に基づいたリスクアセスメントを行うこと。
船舶安全法	: 該当しない

航空法	:該当しない
湾則法	:該当しない
化学物質排出把握管理促進法	:該当しない

16 その他の情報

- 1)本安全データシート（SDS）は、現時点で入手できる最新の資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。
- 2)本文中の注意事項は通常の手扱いを想定しておりますので、製品使用者が特殊な取扱いをされる場合は用途、使用方法に適した安全対策を実施の上、製品を使用して下さい。
- 3)当社は、SDS 記載内容について十分注意を払っていますが、その内容を保証するものではありません。
- 4)本 SDS の危険有害性は、以下の情報・基準を元に作成いたしました。
 - ・厚生労働省「職場のあんぜんサイト」の GHS 対応モデル SDS
 - ・当社原料メーカーから入手した原料 SDS
 - ・JISZ7252:2019「GHS に基づく化学品の分類方法」
 - ・「危険物船舶運送及び貯蔵規則」

本製品については、下記にお問い合わせください。

会社名 ; ジェイカムアグリ株式会社
連絡先 ; 生産管理本部
住所 ; 東京都千代田区神田須田町 2-6-6 ニッセイ神田須田町ビル
電話番号 ; 03-5297-8904
F A X 番号 ; 03-5297-8908
緊急連絡先 ; 水俣工場
電話番号 ; 0966-63-2235